



会報

日本太鼓財団

NIPPON TAIKO FOUNDATION

発行・編集 2024年冬号

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-11-2 日本財団第二ビル6階

公益財団法人 日本太鼓財団 理事長 大澤 和彦

Tel. 03-6205-4377 Fax. 03-6205-4378

URL : <https://www.nippon-taiko.or.jp> Email : info@nippon-taiko.or.jp

新年のごあいさつ

「令和6年能登半島地震」によって、犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被害を受けられました石川、富山、新潟、福井の各県支部の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

新年を寿ぐべき元日から大きな災害に見舞われ、被災者の方々の心労はいかほどかと存じます。日本太鼓財団として、被災された仲間たちへの支援を全力で行って参ります。まずは災害支援の寄付金口座を開設しましたので、各支部でのご協力を何とぞよろしくお願い致します。(注:最終ページをご参照ください)

* * *

さて、2023年を振り返りますと、3月は石川県金沢市の金沢歌劇座において「第25回日本太鼓ジュニアコンクール」を実施しました。「橘太鼓『響座』ジュニア」(宮崎)が第23回大会優勝に続いて5度目の優勝に輝き、内閣総理大臣賞を獲得しました。

5月、東京都文京区の文京シビックホール大ホールにおいて「日本太鼓ジャンボリー 2023」を開催し、全国から参加した優秀チームの高い演奏技術に、お客様から大好評をいただきました。

6月、日本財団より派遣要請を受け、日本に対する理解や認識を高めるとともに、日本太鼓の普及・振興を図



公益財団法人 日本太鼓財団
会 長 長谷川 義

るため、ウズベキスタンに御陣乗太鼓保存会(石川)と豊の国ゆふいん源流太鼓(大分)を派遣いたしました。

8月、「第8回大学太鼓フェスティバル」を文京シビックホール大ホールにおいて大学太鼓連盟と共催で開催いたしました。お客様から「大学生の澁刺とした若さあふれる演奏に元気をもらった」との嬉しい声が聞かれました。

10月、文京シビックホール大ホールにおいて「第25回日本太鼓全国障害者大会」を実施しました。次いで、「第38回国民文化祭 第23回全国障害者芸術・文化祭 いしかわ百万石文化祭2023『太鼓の祭典』」を石川県金沢市の金沢歌劇座において開催いたしました。地元石川県からの13団体を含む19道県及び台湾から38団体が出演し、各地の特色ある演奏にお客さまから大きな拍手が湧きました。

11月、「第20回日本太鼓シニアコンクール」を石川県輪島市の輪島市文化会館にて実施し、35組が出場されました。厳正なる審査の結果、北海道の榎引秀明氏が名人位を獲得し、内閣総理大臣賞に輝きました。

このように、各種事業を実施することができましたのも、日本財団並びにボートレース関係者と会員の皆さま方のご協力とご支援のおかげと感謝申し上げます。

新しく迎えた2024年は安寧とは言い難い形で明けました。しかしこのような年明けであるからこそ、私たち日本太鼓財団が力をひとつに合せて、日本太鼓文化の保存、普及、振興に支部・会員の皆様とともに事業運営にあたりたいと考えております。

今年を終えるときには、2024年が日本太鼓界と会員の皆様にとって実りある年であったと振り返れることを願い、新年のご挨拶といたします。

2024年度主催事業予定

新年度の予定をお知らせします。当財団公式サイトで随時情報を掲載いたしますのでご確認ください。
なお、正式な決定は3月となります。

■日本太鼓ジャンボリー 2024

2024年6月9日(日)

文京シビックホール大ホール(東京都文京区)

■第9回大学太鼓フェスティバル

2024年8月予定

会場調整中

■第26回日本太鼓全国障害者大会

2024年10月6日(日)

DMG MORI やまと郡山城ホール(奈良県大和郡山市)

■国民文化祭2024(岐阜県)「太鼓の祭典」

2024年10月20日(日)

不二羽島文化センター(岐阜県羽島市)

■第8回浅草太鼓祭

2024年11月3日(土・祝)

会場調整中

■第21回日本太鼓シニアコンクール

2024年11月17日(日)

小松市團十郎芸術劇場うらら(石川県小松市)

■第27回日本太鼓ジュニアコンクール

2025年3月23日(日)

iichiko グランシアタ(大分県大分市)

■日本太鼓全国講習会

第72回 2024年9月 富山県

第73回 2025年2月 鹿児島県

第20回日本太鼓シニアコンクール 櫛引秀明氏が栄冠に輝く！！

11月19日（日）石川県輪島市「輪島市文化会館大ホール」において第20回日本太鼓シニアコンクールを開催しました。この大会は、味わい深い演奏を披露するとともに、熟練した太鼓技術を後進に引継ぐことを目指しており、第3回・2006年度より文部科学大臣賞が下付され、第16回・2019年度より内閣総理大臣賞が下付されています。

今大会は12都道府県から35組115名が参加しました。栄えある名人位となり内閣総理大臣賞を手にしたのは櫛引秀明氏（北海道・66歳）でした。2017年に初出場し、5度目の挑戦で見事優勝に輝きました。



（表彰式）

<受賞一覧>（敬称略）

名人位

内閣総理大臣賞 櫛引 秀明（北海道）

準名人

文部科学大臣賞 大江 正明（石川県）

第3位

石川県知事賞 増田 勝明（東京都）

特別賞

輪島市長賞	齋藤 通夫（福島県）
北國新聞社賞	柏木 博光（熊本県）
石川県芸術文化協会賞	雁部 隆治（東京都）
北陸放送賞	河合 光夫（岐阜県）
テレビ金沢賞	小幡 潔（東京都）
北陸三県太鼓協会賞	内藤 昭和（福井県）
日本太鼓財団石川県支部賞	西岡 知則（奈良県）
輪島商工会議所会頭賞	松井 秀明（東京都）
輪島市文化協会賞	村田 謙二（石川県）
（株）浅野太鼓楽器店賞	松野 敏（東京都）



（準名人 大江正明・石川）

＊櫛引秀明名人にご寄稿いただきました。

この度は、日本太鼓財団第20回日本太鼓シニアコンクールにおいて、名人位、内閣総理大臣賞を賜りました。

第14回大会に初めて出場してから6年、この受賞は、私にとって、これまでの太鼓人生の集大成であり、大きな喜びと感動でいっぱいです。

私は、19才から太鼓を始め、48年間太鼓を続けてきました。これまで、地獄太鼓の橋本光司先生をはじめ多くの先生方からご指導をいただき、また、多くの仲間たちと切磋琢磨しながら、太鼓の技術と表現力を磨いてまいりました。

今回のコンクールでは、これまでの経験をすべて出し切るべく、精一杯演奏しました。演奏曲は、私が私淑する大場一刀先生の演目「北海流れ打ちと北海勇み駒」です。私は、この演目を通じて、北海道の太鼓芸能「北海太鼓」の素晴らしさを表現したいと考えました。

演奏当日は、緊張でいっぱいでしたが、伴奏の二人の子供と一緒に何とか自分の演奏をやり遂げることができました。演奏が終わり、出演者の皆様やスタッフの方々から「素晴らしい演奏でした」という言葉をいただいたときは、本当に嬉しくて、涙が出そうになりました。

今回の受賞は、私一人の力によるものではなく、コンクールの舞台で一緒に伴奏をしてくれた娘の杏月と息子の太和、そしてこれまで支えてくださったすべての方々のおかげです。心より感謝申し上げます。

太鼓の演奏は、単に打つだけでなく、呼吸法や身体の使い方など、さまざまな技術を要します。また、太鼓の精神や歴史を理解することも大切です。

この賞を励みに、これからもしっかりと技術を磨き、演奏を通じて、多くの人に元気や勇気を与えられるよう、精進していきたいと考えています。



（名人位 櫛引秀明・北海道）



（第3位 増田勝明・東京都）

戦後日本の太鼓芸能黎明期を訪ねる～御諏訪太鼓保存会（長野県）～

執筆／小野 美枝子（一般財団法人浅野太鼓文化研究所）

日本太鼓を隆盛に導いた偉人・小口大八

戦後の日本における太鼓芸能の発展史を語るとき、その黎明期に大きな貢献をしたとして筆頭にあげられるのは、『御諏訪太鼓保存会』と元代表の小口大八氏だろう。

『御諏訪太鼓保存会』創生期

「偉大な人だったね。弟子で良かった」。およそ40年間にわたり、つねに小口大八のかたわらにいた古屋邦夫は、過ぎた日々を追うように遠い目をして語る。小口の生前、「おやじさん」「ふるや」と呼び合い、小口の創設した『御諏訪太鼓保存会』の絶頂期を共に過ごした二人は、同時に日本の太鼓芸能の発展を共に体験してきた間柄。『清濁併呑』を信条とした小口の、今となっては光も影も知り尽くした唯一の生き証人と言えるだろう。

小口大八。1924年（大正13）2月27日、長野県諏訪郡平野村（のちの岡谷市）生まれ。幼少期から明朗で人懐っこい性格、長ずるにつれて抜群の運動神経とリズム感の良さで頭角を現し、12歳で入学した諏訪蚕糸学校・岡谷工業学校ではスケート部に所属。全国規模で開催されていた『明治神宮国民体育大会スケート選手権』に中部代表選手として2年連続出場した。また1941年（昭和16）に入学した早稲田大学の在学中にはドラムを習い、ジャズバンドの前座などで演奏。1944年に学徒動員で出征し、3年後に復員してアマチュアのジャズバンド『燦星楽団』を従兄弟の小口栄一郎らと結成。スケートも再開し、1950年まで国体に出場。長野県スケート連盟の結成に尽力し、監督や公式審判員として長く活躍した。



（気迫のこもった演奏で聴き手を魅了する小口）

さて『燦星楽団』の結成に前後し、本家筋の小口喜代人宅の味噌蔵から、その祖父藤太郎による『カク太覚え書き』なる書き付けがみつき、そこに記されていた諏訪大社の神楽太鼓復元の願いがやがて『諏訪太鼓』の創設につながったという“伝説”はあ

まりにも有名だ。よって詳細は割愛するが、ともかく洋楽のドラムに傾倒していた小口が、和太鼓の面白さに開眼したのは、この一件があったからなのは間違いないだろう。

喜代人の依頼により、神楽太鼓の復元に取り組み始めた小口は、来る日も来る日もひたすら太鼓を打ち込んだという。その熱意に刺激され、いつしか『燦星楽団』のメンバーも面白半分に稽古に加わるようになった。だが、何と言っても太鼓の大音量は近所迷惑で、稽古場所の確保にはだいぶ苦労したようだ。



（御幣と幟旗をトレードマークに『阿修羅』を演奏）

1957年（昭和32）8月1日、小口は仲間たちとともに諏訪大社の『お舟まつり』で、「武田信玄の陣太鼓を復活した」というふれこみで神楽太鼓を初めて奉納した。このときは武田軍の軍楽隊の名称『諏訪太鼓』と名乗っていたが、諏訪地方一帯の武勇と農耕の神として尊崇されている諏訪大社が通称「お諏訪さま」と呼ばれていたことから、「では太鼓団体の名も『御諏訪太鼓保存会』が良だろう」と、頭に『御』を冠し、軍楽の保存・継承を趣旨とする太鼓として、接尾に『保存会』をつけたといういきさつを古屋は証言する。また『御諏訪太鼓保存会』は一貫して太鼓に大ぶりの御幣をくくりつけ、太鼓の横には『無形文化財信濃之国御諏訪太鼓』と記した幟旗を掲げている。これについても、御幣は神への奉納を表し、公的にはどこからも指定を受けていないにもかかわらず旗に「無形文化財」と大書しているのは、諏訪大社が上社・下社ともに国の重要文化財に指定されており、その宮司が認めるからには文化財に匹敵する太鼓であると、当時の三輪磐根宮司からお墨付きをもらったという。これも古屋の証言。

ところで『御諏訪太鼓保存会』創設当初、太鼓の編成は前述の喜代人が寄付した直径3尺の削り抜き太鼓ひとつと、小太鼓、鐘というシンプルなものだったらしい。だが、かつてジャズバンドで活躍した小口は、ドラムセットのように複数の太鼓を組み合わせて演奏するスタイルを考案。種類も大きさも異なる太鼓を複数個組み合わせて演奏することで「ドンツクドンツク」と鳴るだけの音色の平板化から脱却し、いわば「太鼓が歌う」という状況を創り出した。名づけて『組太鼓スタイル』。この演奏形態はその後日本太鼓編成の定番となり、現在では誰一人疑うことなく取り入れている。ちなみに小口の進取の気風は演奏スタイルの革新にとどまらず、太鼓演奏にきらめくような金属音を添える鉄筒の開発や、革の締め上げに難渋する締太鼓のロープ締めから、スパナ1丁で容易に音調整ができるボルト締めの方法を考案したのも小口だった。

天衣無縫、太鼓に生きる

小口はまた作曲の才にも優れ、『阿修羅』『飛龍三段返し』『勇駒』など、『御諏訪太鼓保存会』に多くの曲を残した。指導者としてかかわった国内外の太鼓チームに提供した楽曲も含めると、その数は300曲は下らないと古屋は語る。だが初期のころはほとんど楽譜がなかったという。古屋によれば、やぐら太鼓が「デンデン」、締太鼓が「テンテン」、1尺6寸と1尺8寸の中太鼓を「ドンドン」、1尺4寸と1尺3寸の小太鼓を「トントン」という音で表し、使う太鼓を区別した。1951年に作曲された『諏訪雷』もやはり、リズムを刻むはやし太鼓と鉄メ、鉄筒を「ツンツク ツンツク」、桶胴を「ドンドコ ドンドコ」、拍子木などの打ち物を「シャジャ シャンチャン」と擬音で示し、曲の流れは

AB太鼓 連打に入る

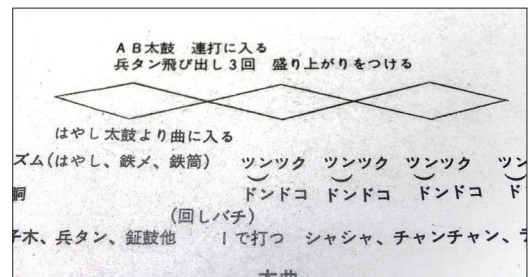
兵タン飛び出し3回 盛り上がりをつける

はやし太鼓より曲に入る

と、まるで暗号文のごとき指示があるのみ。

1959年（昭和34）、小口に太鼓を習いに来た浅草国際劇場のSKD松竹少女歌劇団の稽古風景を見物して小口の太鼓の迫力に魅了され、やがて18歳で『御諏訪太鼓保存会』に加わった古屋は「曲は演奏を見て覚えるしかなかった」と振り返る。だが楽譜がないのは、指導する場合にも不都合だった。岡谷市の商業イベントなどで注目され、やがて全国的に人気を高めていった『御諏訪太鼓保存会』には、次第に指導の依頼も舞い込むようになった。しかし楽譜がないため、指導はもっぱら口唱歌。そのためには曲を頭の中にたたき込むのが大前提で、「指導する立場になって、ようやく真剣に曲を覚えるようになって

た」と古屋。1980年（昭和55）に小口大八編著として全国諏訪太鼓連絡協議会から発行された『日本の太鼓』（附御諏訪太鼓縁起・鼓譜）には、1978年に開催された『やまびこ国体』の太鼓集団演奏曲として前年に小口が作曲した『信濃路にこだまする万雷の響き』の解説「音文字による楽器別打奏方法」に、かろうじて音符の記載が見られるのみだ。



（楽曲『諏訪雷』の譜面（『日本の太鼓』（附御諏訪太鼓縁起・鼓譜）より）

ところで、天真爛漫で豪放磊落、興味をもったものには一目散に突進する（と思われる）小口は、実にさまざまな職業を変遷しており、興味をそそられる。戦争から復員直後は家業の電気部品製造工員、次いで『大八パン』なる製パン業を営み、さらにケーキ屋、バー、スタンド割烹、小料理屋と転業を繰り返し、今も遺族が営む葬儀屋『岡谷造花』ならびに太鼓の製造・修理を行う『諏訪響太鼓店』へと続く。現岡谷市商工会議所職員の溝口敬介の実家も岡谷市で葬儀屋を営んでいたため、敬介少年は幼いころから小口とは顔見知り。まだ三つにもならないころ、訪ねて来た小口にバチを持たされ「どうだ坊主、打ってみるか」と大きな声で迫られ、子供ながらにその豪快なキャラクターに圧倒されたという。ほとんど脈絡なくやすやすと異業種に転換していった小口には、もちろん小口なりのポリシーがあったのだろうが、古屋によれば「時代に合わなかったのだろう」と一言。まだ生クリームの菓子など岡谷では見たこともない時代にケーキ屋を開業したり、飲食業では気に入った客からは勘定を受け取らなかったりと、どちらかといえば気まぐれ商売。ただ、どんな状況においても生活の糧を得るための生業と、ひと筋に情熱をそそいだ太鼓の活動をきっちり分けて、決して揺らぐことはなかった。

全日本太鼓連盟の設立以後

こうして84年の生涯をジェットコースターのように疾走した小口の最大の功績といえば、やはり『全日本太鼓連盟』設立に向けた東奔西走の働きだろう。といっても一気に設立にこぎ着けたわけではない。そのきっかけは1970年の日本万国博覧会であり、連盟発足の前段階ともいえるのが『岡谷太鼓保存会』の設立であり、『やまびこ国体』での太鼓合同演奏に向

けた『信州太鼓連盟』の設立だった。1970年(昭和45)、大阪での日本万国博覧会「お祭り広場」に、小口の声掛けにより各地域の太鼓打ちたちが参集し、それぞれの太鼓を披露することとなった。このときに小口は全国の太鼓打ちが交流して技術を磨ける場を設けようと、御陣乗太鼓の池田庄作などの有力太鼓奏者に組織構想を持ち掛けた。

同年、岡谷市では「自分たちのまちに、自分たちのふる里の祭りをつくろう」との合い言葉のもと、太鼓を中心とした郷土芸能の祭り『岡谷太鼓まつり』がスタート。参加した太鼓チームは市内6団体で、岡谷商工会議所会頭の山岡利平が会長、小口ほか5名が副会長となり『岡谷太鼓保存会』を設立。打ち手の技術向上を目的として『打ちくらべ大会』が盛り込まれるようになった第4回には参加団体は10チームに増え、その5年後に長野県で開催された『やまびこ国体』では、岡谷太鼓保存会の加盟18団体を含めた県内の打ち手416名が、前述の小口作曲の『信濃路にこだまする万雷の響き』を揃い打ちした。



(今も小口大八と共にいる古屋邦夫)

この演奏成功を時機到来のチャンスととらえ、小口は全国的な組織づくりに動き出す。そして1979年(昭和54)、日本船舶振興会(当時、現・日本財団)との交渉を経て、振興会会長の笹川良一を会長、小口、池田らを副会長とした『全日本太鼓連盟』が発足した。全国の主だった太鼓打ちとひんぱんに連絡をとり合い、組織の具体的な骨組みづくりまで行った小口の献身的な奔走があつての発足だった。

翌1980年、箱根で第一回全日本太鼓連盟講習会が開催された。その会場で初めて小口に出会った時のことを、一般財団法人浅野太鼓文化研究所理事長の浅野昭利はこう回想する。「当時、数少ないプロの打ち手として活躍著しかった小口さんは、全国に太鼓を広めようと使命感に燃えていた。会場の一隅で太

鼓を展示していた私に小口さんは気軽に声を掛けてくれ、太鼓はこれからどんどん広がる。お互いに頑張ろうと。そう言われてもまだ20代だった私には未来の太鼓界など想像できず、曖昧にうなずくだけ。このとき取材に来ていた新聞記者が、これから太鼓は本当に広がると思いませんか?と近寄ってきた。小口さんはきっぱりと、広がります。大きくなります!と胸を張った。その自信に満ちた声は、今も私の耳にはっきり残っています」。その後、小口の予言は的中し、太鼓は急速に日本全国に普及。ことに1985年以降の地域活性化ブームには、全国の自治体が“町おこし・村おこし”の手段を太鼓に求めることが社会現象の一つになった。またテレビや舞台で活躍する『御諏訪太鼓保存会』や『御陣乗太鼓』『鬼太鼓座』などのプロ集団に触発された若者たちが、地域や伝統にとらわれない新しい太鼓の形として、創作太鼓グループを次々に立ち上げた。その結果、郷土に根ざした伝統の太鼓から、パーカッションの要素を取り入れたリズム重視の太鼓、芸術性を追求する求道的な太鼓までさまざまな太鼓音楽が乱立することになった。だが小口は「太鼓は楽しむもの。人の心を一つにする。どんなリズムも打法も、太鼓の表現に変わりはない」と、すべての太鼓をおおらかに見守った。

小口大八あつてこそその日本太鼓の広がり

心から太鼓を愛し、84歳までばちを握った小口は、2008年(平成20)6月27日夜、自宅近くで輪禍に遭って急逝した。現場に居合わせた人の話では、「ドーン」と鈍い衝撃音とともに10メートルもはね飛ばされたという。その直前まで翌日の演奏の準備をしていたという小口の通夜には親交のあつた打ち手らが全国から駆けつけ、誰からともなく思い出を語って在りし日の姿をしのんだ。

台湾に太鼓指導に出かけ、小口の臨終に立ち会えなかったという古屋は「行政と一切かわらず、組太鼓という新しいスタイルを編み出し、それを惜しげもなく世に広めたことが、今のようにな太鼓が広がった元になったと思うね。これがおやじさん一人の名人芸だったら、ここまで広まらなかったろうな」と回顧する。

全日本太鼓連盟は法人化を経て公益財団法人となり、『日本太鼓財団』と名をあらためた。小口亡きあと、『御諏訪太鼓保存会』は小口の遺した『鼓道十訓』とともに、古屋によって守られている。

古屋邦夫氏プロフィール:1948年(昭和23)長野県生まれ。日本太鼓財団評議員、技術委員会委員長。小口大八氏より引き継いだ御諏訪太鼓保存会代表を務める。

第7回浅草太鼓祭

11月3日(金・祝) 東京都台東区「隅田公園山谷堀広場」

浅草太鼓祭実行委員会及び特定非営利活動法人東京都太鼓連合主催、日本太鼓財団東京都支部主管、日本太鼓財団協賛により開催されました。

始めに東京都支部合同チームが息の合った演奏を披露しました。続いて地元浅草からの2団体を含む6都県18団体による特色ある演奏は、スカイツリーをバックに16時まで続けました。季節外れの暑さの中で、約650名のお客さまが楽しまれました。ご来場いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。



(東京都支部合同演奏)

第6回北海道太鼓ジュニアコンクール

11月26日(日) 北海道旭川市「旭川市公会堂」

日本太鼓財団北海道連合会主催、北海道5支部10団体が参加し、無事に終了いたしました。

優勝 蝦夷太鼓ジュニア(北海道道東)

準優勝 岩見沢茜太鼓(北海道道西)

第3位 赤平火太鼓保存会(北海道道西)

日本太鼓財団賞 寿子ども蝦夷太鼓同好会(北海道道東)



(優勝 蝦夷太鼓ジュニア・北海道道東)

第12回東北太鼓ジュニアコンクール

11月12日(日) 山形県酒田市「庄内町文化創造館 響ホール」

東北太鼓連合主催、東北5県より16団体が参加し、無事に終了いたしました。

優勝 やまばと太鼓(秋田)

準優勝 和太鼓 翠(福島)

第3位 會津田島太鼓「狐ノ刃」(福島)

日本太鼓財団賞 刈和野大綱太鼓(秋田)



(優勝 やまばと太鼓・秋田)

第18回全九州・日本太鼓ジュニアコンクール

12月17日(日) 熊本県熊本市「熊本城ホール」

全九州太鼓連合主催、九州7県より34団体が参加し、無事に終了いたしました。

優勝 太鼓研修センター「響」(宮崎)

準優勝 三代目源流(大分)

第3位 糸島二丈絆太鼓(福岡)

日本太鼓財団賞 院内童龍太鼓(大分)



(優勝 太鼓研修センター「響」・宮崎)

支部予選で全国大会出場権を得ていない団体の中から最上位の団体が全国大会出場権を得ます。当財団技術委員を含めた審査委員会の協議により、予選で全国大会の出場権を得ていない団体の最上位団体であった以下の団体が、全国大会に推薦されることとなりました。

北海道大会: 岩見沢茜太鼓(北海道道西)

東北大会: 和太鼓 翠(福島)

九州大会: 舞鶴一座 秋月鼓童(宮崎)

第26回日本太鼓ジュニアコンクール

期 日:2024年3月24日(日) 開場10:00 開演10:30(予定)

会 場:大宮ソニックシティ

〒330-8669 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5 TEL.048-647-4111

主 催:公益財団法人 日本太鼓財団

主 管:日本太鼓財団埼玉県支部

入 場 料:前売券2,000円

(チケットぴあにて2月1日10時より販売開始! Pコード260-672)



***今回もYouTubeにより生配信いたします!**

会場にお越しになれない方は、右記QRコードよりご覧いただけます。

出場団体:46団体【国内44団体(36都道府県)、ブラジル、台湾代表チーム】(予定)

出場団体及び出場順番は2024年1月19日開催の運営・技術合同委員会にて決定いたします。

予選実施:34支部297団体2,795名(海外予選含む) 支部推薦:4団体 支部未開設県:2団体

道 東:蝦夷太鼓ジュニア

道 央:江別見晴台鼓楽会豊太鼓

道 西:赤平火太鼓保存会

道 南:室蘭和太鼓会 北風

道 北:富良野彌榮太鼓保存会

岩 手:岩手県立大船渡東高等学校太鼓部

秋 田:やまばと太鼓

山 形:太鼓道場風の会ジュニア「雷神組」

福 島:會津田島太鼓「狐ノ刃」

栃 木:岩舟武蔵太鼓ジュニア

群 馬:群馬県立安中総合学園高等学校 飛翔

埼 玉:駒王太鼓 嵐

川越ふじ太鼓

千 葉:和太鼓 風

東 京:東京都立松が谷高等学校和太鼓部

神奈川:打鼓音ジュニア

静 岡:天城連峰太鼓

新 潟:新潟万代太鼓 鼓助

富 山:越中いさみ太鼓保存会 春蘭

石 川:輪島・和太鼓 虎之介

福 井:権兵衛 Jr. 燎〜 kagaribi 〜

長 野:信濃国松川響岳太鼓子供会

岐 阜:麗澤瑞浪高等学校 太鼓部

愛 知:吉川太鼓 鼓流

三 重:津・高虎太鼓

京 都:京都光華中学校・高等学校 和太鼓部

大 阪:金光藤蔭高等学校和太鼓部「鼓響」

和歌山:境原和太鼓クラブ

兵 庫:養父太鼓 鼓彩

岡 山:ふじた傳三郎太鼓 童

広 島:広島山陽学園山陽高等学校和太鼓部

山陽太鼓「弾」

島 根:掛合太鼓ジュニア

高 知:明德義塾中学・高等学校 太鼓衆魅鼓

香 川:和太鼓集団響屋ジュニア

福 岡:糸島二丈絆太鼓

佐 賀:大和太鼓保存会 鼓天童子

長 崎:おおむら太鼓連くじら太鼓

熊 本:託東太鼓

大 分:三代目源流

宮 崎:太鼓研修センター「響」

鹿児島:火の神乙女太鼓 爽

北海道:岩見沢 茜太鼓

東 北:和太鼓 翠

九 州:舞鶴一座 秋月鼓童

ブラジル:オザスコ轟太鼓

台 湾:柏齡太鼓團

特別出演:橘太鼓「響座」ジュニア(宮崎・第25回日本太鼓ジュニアコンクール優勝団体)

*北海道大会の結果から「岩見沢茜太鼓」(北海道道西)、東北大会の結果から「和太鼓 翠」(福島)が、九州大会の結果から「舞鶴一座 秋月鼓童」(宮崎)がそれぞれ推薦されました。

「令和6年能登半島地震」に係るご寄付のお願い

2024年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」により、輪島市、珠洲市をはじめとする各地で甚大な人的・物的被害が発生し、災害救助法が適用され、激甚災害指定の手続きが進められております。当財団会員には人的被害はありませんでしたが、家屋の損傷等や居住ができなくなるなど、多くの太鼓仲間が被災をされています。

日本太鼓財団では、少しでもお力になればとの思いから、被害を受けた太鼓関係者に対する支援金のご寄付受け付けを開始いたしました。

皆様の温かいご支援をよろしくお願いいたします。

なお、ご寄付頂いた支援金は各支部、地区ブロックで取りまとめいただきますので、ご所属の各支部、もしくはブロック宛にお問合せの上、お送りください。支部に所属されていないかたは、ページ下部の公益財団法人日本太鼓財団までお問合せください。

JICA 日系社会研修「太鼓の指導者育成」研修生が来日

2024年1月8日から3月27日までの約3ヶ月間、ブラジルから研修生4名が来日します。2020年以来新型コロナウイルスの影響で中止されておりましたが、4年振りに実施することとなりました。日本太鼓全国講習会の受講および、ジュニアコンクールの運営を学ぶためスタッフとして参加するほか、様々な打法を学ぶため各地で研修を行う予定です。皆様の地域を訪れた際には、ご協力をお願いいたします。

研修生4名

中原 エデルソン 一男（飛翔太鼓）、渡部 ミレーネ ひかり（源流和太鼓）、

デ ファリア ド ナシメント ジョアン マルセロ（光太鼓）、伊豆味 エンリッケ ゆきお（桜吹雪和太鼓）

第71回日本太鼓全国講習会（熊本）

期 日：2024年2月24・25日（土日）

会 場：小川総合文化センター・ラポート

（〒869-0624 熊本県宇城市小川町江頭80番地 Tel.0964-43-0004）

主 催：公益財団法人 日本太鼓財団

○総合指導 古屋 邦夫（技術委員会委員長）

○基本講座

3級基本講座 野方 嘉孝

4級基本講座 高島 奈々

5級基本講座（初心者講座） 松枝 明美

○専門講座

単式単打法講座（大太鼓） 岩切 響一（橘太鼓「響座」・宮崎）

複式単打法講座 今泉 豊（助六太鼓・東京）

複式複打法講座 長谷川 義（豊の国ゆふいん源流太鼓・大分）

専門講座講話 長谷川 義（日本太鼓財団会長）

申 込 先：ページ下部の公益財団法人 日本太鼓財団までお申込みください。

担当：笠原、山本 E-mail:jigyo@nippon-taiko.or.jp

お問合せ先：日本太鼓財団熊本支部 事務局長 坂口繁幸

携帯：090-8669-6315

締 切：2024年2月9日（金）＊必着

第39回国民文化祭 第24回全国障害者芸術・文化祭

「清流の国ぎふ」文化祭2024「太鼓の祭典」出演団体募集中！

2024年10月20日（日）「不二羽島文化センター」（岐阜県羽島市）にて開催する「清流の国ぎふ」文化祭2024「太鼓の祭典」の出演団体を募集中です。詳細は当財団公式サイトからご覧ください。

皆様のご応募をお待ちしております。



公益財団法人 日本太鼓財団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-11-2 日本財団第二ビル6階

Tel. 03-6205-4377 Fax. 03-6205-4378

URL: <https://www.nippon-taiko.or.jp> Email: info@nippon-taiko.or.jp

